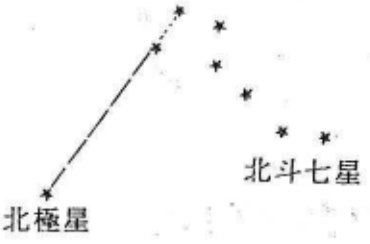
北斗七星

皆さんは「星座をいくつ見つけることができますか？」と聞かれたら、答えることができますか。なかには指折り数えることができる人もいるかもしれませんが、ほとんどの方は「どうかな」と考え込むのではないでしょうか。そんな方にいちばんみつけやすい星座をお教えしましょう。それは「北斗七星」です。春のはじめの夕方の北東の空に七つの星がひしゃくの形に並んでいます。ひしゃくは神社等にある水をくむ道具です。昔、イギリスでは馬車の形に似ているとも言われました。北斗七星は本当は星座の名前ではなく、おおぐま座という星座の一部にあたります。

北斗七星と北極星

北斗七星から北極星を見つけることができます。北斗七星のひしゃくの「ます」の部分にあたる二つの星の長さを5倍伸ばすと、北極星があります。北極星はいつもま北に見える星です。高さは場所によって違いますが、その土地の緯度とほぼ同じです。富山の場合はおよそ地平線から36－37度の高さにいます。

北極星はいつも空の同じ場所に見えますが、北斗七星はいつでもみえるわけではありません。午後8時ころですと、春に北東の空に見え始め、初夏の頃に北の空高くに昇ります。このころが一番見やすいでしょう。そして、夏には北西の空低くに見え、秋には北の空低くになり、見えな

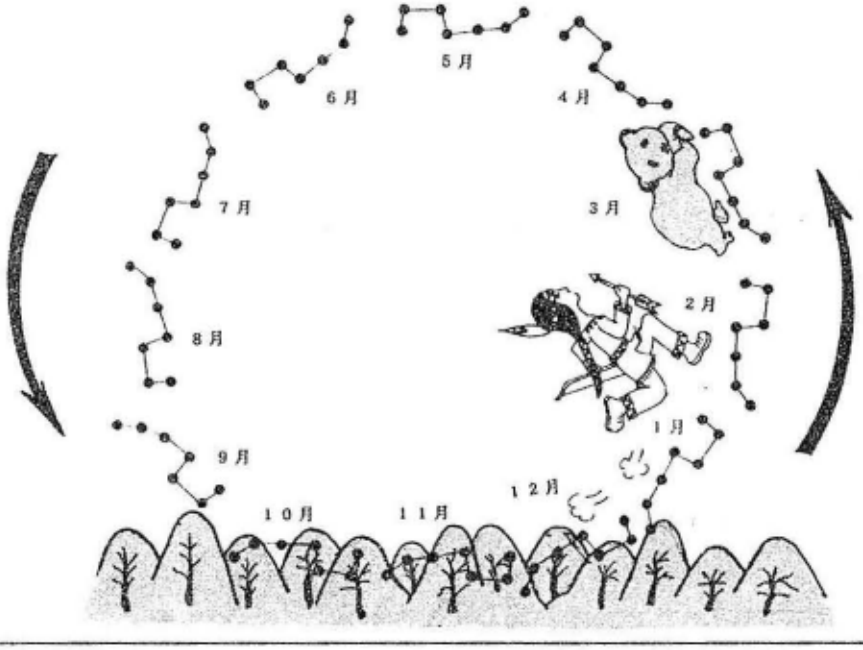


くなります。この季節の動きをうまく表現したアメリカ・インディアンの伝説がありますので、ご紹介しましょう。

インディアンの伝説

北斗七星のうち、ひしゃくの「ます」にあたる4つの星を熊に見立てます。そのあとの3つの星は3人のインディアンです。春のはじめに冬眠からさめたばかりの熊は突然3人のインディアンに追いかけられて、びっくりして空に昇り始めます。インディアンも負けずに空に昇り、追いかけます。5月ごろ、空に昇るのに疲れた熊は今度は下に降りようとします。インディアンも負けずに追いかけますが、なかなか追いつけません。ようやく秋になるとかわいそうにも熊は北西の山に頭をぶつけて、死んでしまいます。インディアンはやっと熊に追いつくことができるのです。秋になると、北斗七星の四角い部分が見えなくなるのはそのためだとも言われています。

北斗七星にはこの他にも色々な伝説が伝わっています。そのような伝説を楽しみながら夜空をながめてみてはいかがでしょうか。（渡辺誠）



富山市科学文化センター
〒939　富山市西中野町1丁目8番31号
電話　（0764）91－2123（代表）
平成3年　3月10日発行